

町田 洋・松田時彦・海津正倫・小泉武栄編
「日本の地形5 中部」

三宅 康幸*

Book Review: Regional Geomorphology of the Japanese Islands. Vol. 5
Geomorphology of Chubu Region. edited by Hiroshi MACHIDA *et al.*

Yasuyuki MIYAKE*

本書は、全国を網羅した地形誌として編集された「日本の地形」シリーズ全7巻の中部地方版である。このシリーズの刊行のことばには、このシリーズの目的として「自然史と人間活動が刻まれている日本の地形の姿とその形成過程、すなわち地形発達史を…知っていただき、これからの地形環境の保全・創成や防災や土地利用に、また風景にひそむ歴史を読むのにも役立ててほしい」とある。つまり、現在の地形を作る発達史の記述に主眼が置かれている。日本のなかでも中部地方は火山の多い地域であり、当然ながら、火山発達史と地形との関連についても詳述されている。そこで、中部地方の緒火山に関わっている一員として、ここに本書を火山学会会員諸氏に紹介する次第である。

中部地方の地質について知る総合的な地質誌としては、共立出版の「日本の地質」シリーズの「中部地方Ⅰ」と「中部地方Ⅱ」および同シリーズの増補版があり、また朝倉書店からは「日本地方地質誌4 中部地方」が2006年に刊行された。共立の「日本の地質」シリーズは各地域を構成する地層・岩石などの地質情報と文献を詳細に網羅するものとなっており、一方朝倉の「日本地方地質誌4 中部地方」は地質構造発達史—テクトニクス—の記述と、その根拠となっている重要な露頭の説明とで構成されている。いわば両シリーズは地質の記載と議論を相補的に分担しているといえる。これらの地質誌と比べて、「日本の地形5 中部地方」は、いうまでもなく、現在の地形を基軸として記述されている。しかし単なる形態としての地形記載に留まらず、「地形発達史」に基軸をおいて説明されているので、とりわけ火山においては、火山活動史と現在の地形との関係が詳述されている。従って本書は、地質の体系的な記載ではないが地形に係わる新しい時代の火山活動史を物語る構成となっている。それぞれの火山体を構成している地層名や岩石種の記載は最小限にして、火山体の特徴的な地形の成因、噴出場の推定、テフラ層序やまわりの扇状地や河川・段

丘地形に与えている影響などについて解説されている。また、いくつかの火山ではテクトニックな背景にも触れられている。特に詳細に記述されているいくつかの火山について具体的に紹介してみよう。富士火山の小見出しは以下のようになっている。前文、1) 富士山の基盤、2) 富士山の形成史、3) 富士山麓の地形変化とテフラ、4) 大型成層火山を成立させた環境。前文において、玄武岩質マグマの火山としては異例に急傾斜の斜面を持つことや植生の限界が低いことなどが述べられる。2) においては、氷期における山頂部の火山活動と泥流多発との関連が興味を引く。3) では、火山活動による山麓の湖の消長が述べられている。八ヶ岳火山群も6ページ6図を用いて詳しく記述されている。八ヶ岳の南部と北部の対照的な山岳地形はよく知られているところであるが、山麓扇状地も含めた地形の特徴に問題意識をもたされて読み進むことになる。大月川岩屑なだれに伴う地形変化や、山麓でのテフラ層序と山体形成史との対比などが興味深い。飛騨山脈の槍・穂高連峰のコールドロンに関して、飛騨山脈中軸部の造山過程との関連でまとめて詳しく紹介されている。合わせて赤石山脈や木曾山脈の隆起過程についても詳しく述べられているので比較しながら読むとたいへん興味深い。すべての中部地方の火山について情報が均一にそろえられている訳ではないが、かなりの数の火山が網羅されていると言えよう。

本書がもつ他の地質誌にない特色の一つは、氷河と周氷河地形について12ページにも渡って記述されていることであろう。特に中部山岳地域を抱えた本書の特徴といえる。全ページの右3cmの余白にある欄外の記述は有効である。そこには、おそらく初稿が集められた後の新たなデータが盛り込まれているので最新の情報を知ることができ、これから研究を進める若い研究者が乗り越えるべき水準が良く示されていると言える。各章に散りばめられた1~2ページのコラム記事もおもしろい。そのいくつかをタイトルのみ紹介する。「貯水槽としての富士山」「上高地の地形」「謎の天正13年飛騨地震」「安政の立山崩れと地形変化」「高原川・神通川の河成段丘—焼岳火山の活動に伴う河谷の埋積」。本文最後の「保全すべき原自然、地形」の項は、貴重な問題提起である。

* 〒390-8621 松本市旭3-1-1
信州大学理学部地質科学教室
Dep. Geology, Fac. Science, Shinshu University, Asahi
3-1-1, Matsumoto, 390-8621, Japan.
e-mail: ymiyake@shinshu-u.ac.jp